

＜福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ＞  
(12月13日 午前10時現在)

平成23年12月13日  
東京電力株式会社  
福島第一原子力発電所

福島第一原子力発電所は全号機（1～6号機）停止しています。

1号機（停止中）

- ・ 3月12日午後3時36分頃、直下型の大きな揺れが発生し、1号機付近で大きな音があり白煙が発生しました。水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後3時37分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 12月10日午前10時11分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。  
現在の注水量は給水系配管から約4.4m<sup>3</sup>/時、炉心スプレイ系注水配管から約1.8m<sup>3</sup>/時です。
- ・ 4月7日午前1時31分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 8月10日午前11時22分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。  
12月11日午後10時20分、電源信頼性向上に向けた電源切替工事实施に伴い、使用済燃料プール代替冷却を停止しました。12月12日午後5時7分、電源切替工事完了に伴い使用済燃料プール代替冷却を再開しました。なお、停止時のプール水温度は14℃であり、冷却再開時のプール水温度は15℃でした。
- ・ 10月28日、放射性物質の飛散を抑制する原子炉建屋カバーの設置工事が完了しました。
- ・ 11月30日午後4時4分、原子炉压力容器へ窒素封入操作を開始しました。

2号機（停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃に圧力抑制室付近で異音が発生、同室の圧力が低下しました。
- ・ 3月26日午前10時10分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月14日午後2時59分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。  
現在の注水量は給水系配管から約2.6m<sup>3</sup>/時、炉心スプレイ系注水配管から約6.1m<sup>3</sup>/時です。
- ・ 5月31日午後5時21分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。  
12月12日午後3時53分、2号機使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、一次系ポンプの出入口の流量差が大きいことを示す警報が発生しました。現場を確認したところ、漏えい等の異常は確認されていません。現在、同警報による自動停止条件を除外し、代替監視処置としてスキマサージタンク水位の監視強化および異常時には手動停止させる運用としていることから、スキマサージタンク水位を確認し、変動がないことを確認しました。午後5時18分、計装配管の打振を実施し、警報がクリアしたことを確認しました。今後、流量計の点検または検出ラインのフラッシングを実施し、監視強化を行う予定です。なお、使用済燃料プール代替冷却システムは継続して運転しており、冷却に問題はありません。
- ・ 6月28日午後8時6分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 10月28日午後6時より原子炉格納容器ガス管理システム本格運用を開始しました。
- ・ 12月1日午前10時46分、原子炉压力容器へ窒素封入操作を開始しました。

### 3号機（停止中）

- ・ 3月14日午前11時1分頃、1号機同様大きな音とともに白煙が発生したことから、水素爆発を起こした可能性が考えられます。
- ・ 3月25日午後6時2分より原子炉への淡水の注入を開始し、現在は外部電源から受電した電動ポンプで淡水の注入を行っています。
- ・ 9月1日午後2時58分、給水系配管からの注水に加え、炉心スプレイ系注水配管から原子炉への注水を開始しました。  
現在の注水量は給水系配管から約 $2.8\text{m}^3$ /時、炉心スプレイ系注水配管から約 $6.1\text{m}^3$ /時です。
- ・ 6月30日午後7時47分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 7月14日午後8時1分、原子炉格納容器内へ窒素ガスの注入を開始しました。
- ・ 11月30日午後4時26分、原子炉圧力容器へ窒素封入操作を開始しました。

### 4号機（定期検査で停止中）

- ・ 3月15日午前6時頃、大きな音が発生し、原子炉建屋5階屋根付近に損傷を確認しました。
- ・ 7月31日午後0時44分、使用済燃料プール冷却浄化系の代替冷却装置によるプール水の循環冷却を開始しました。
- ・ 11月29日午前10時58分、4号機の使用済燃料プールにおいて塩分濃度を低減するためイオン交換装置の運転を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

### 5号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午前5時、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後2時30分、原子炉は冷温停止状態となりました。
- ・ 7月15日午後2時45分、本設の残留熱除去海水系（B系）ポンプによる残留熱除去系（B系）の運転を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

### 6号機（定期検査で停止中）

- ・ 安全上の問題がない原子炉水位を確保しています。
- ・ 3月19日午後10時14分、残留熱除去系ポンプを起動し、使用済燃料プールの冷却を開始しました。
- ・ 3月20日午後7時27分、原子炉は冷温停止状態となりました。
- ・ 9月15日午後2時33分、原子炉は残留熱除去系、使用済燃料プールは補機冷却系および燃料プール冷却系、各々の系統による冷却を開始しました。
- ・ 現時点において、原子炉格納容器内での冷却材漏えいはないものと考えています。

### その他

- ・ 6月13日午前10時頃、2、3号機スクリーンエリアに設置した循環型海水浄化装置の運転を開始しました。
- ・ 6月17日午後8時、水処理設備において滞留水の処理を開始しました。また、7月2日午後6時、水処理設備による処理水を、バッファタンクを経由して原子炉へ注水する循環注水冷却を開始しました。
- ・ 8月19日午後7時41分、セシウム吸着装置から除染装置へのラインと第二セシウム吸着装置の処理ラインの並列運転による滞留水の処理を開始しました。
- ・ 10月7日午後2時6分、伐採木の自然発火防止や粉塵の飛散防止を目的とした構内散水を、5、6号機滞留水浄化後の水を利用し、開始しました。

- 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、10月28日、1～4号機の既設護岸の前面に海側遮水壁の設置に関する工事に着手しました。
- 11月30日午後6時3分、2号機タービン建屋地階から集中廃棄物処理施設高温焼却炉建屋への溜まり水の移送を開始しました。12月13日午前7時51分、電源強化工事に向けて2号機滞留水移送ポンプの電源を停止するため、2号機タービン建屋地下から集中廃棄物処理施設（雑個体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋]）への溜まり水の移送を停止しました。本停止に伴い、集中廃棄物処理施設（雑個体廃棄物減容処理建屋 [高温焼却炉建屋]）の水位調整のため、12月12日午前8時44分、ベッセル交換のため停止していた第二セシウム吸着装置については、12月14日まで継続して停止する予定です。なお、セシウム吸着装置については運転を継続しており、引き続き滞留水の処理を実施しております。また、原子炉注水はバッファタンク内の淡水化処理した水により継続実施することから影響はありません。
- 12月12日午前10時から12月12日午後4時まで、6号機タービン建屋内から仮設タンクへ溜まり水の移送を行いました。また12月13日午前10時、溜まり水の移送を開始しました。
- 12月12日午後4時頃、淡水化装置（蒸発濃縮方式）3Cのサンプリングラインからの残水を受けるバケツが満水となり周囲に水が溢れていることを確認しました。水溜まりの範囲は、バケツから半径1m程度（バケツ容量：約7リットル、バケツから溢れた量：約3リットル）であり、堰内に留まっていました。午後7時30分頃、現場確認を行い、バケツの交換を実施した際、サンプリングラインの弁に接続されているホースからの漏えいはありませんでした。午後8時30分頃、再度現場を確認したところ、交換したバケツが溢れていることを確認しました。水溜まりの範囲は、バケツから半径1.5m程度（バケツ容量：約12リットル、バケツから溢れた量：約7リットル）であり、堰内に留まっていました。午後8時50分頃、サンプリングラインの弁が完全に閉まっていない状態が確認されたことから、当該弁を閉め直し、ホースからの漏えいがないことを確認しました。なお、午後10時25分頃、念のためポンプの出入口弁の閉操作を実施し、同装置3Aおよび3Bにおいても、同様の対応を完了しました。午後11時40分頃、現場を確認したところ新たな漏えいは発生していません。
- 12月4日、蒸発濃縮装置3A～3Cにおいて、堰のコンクリート製床の継ぎ目の一部にシーリング材の変形により隙間が広がっており、堰からの水漏れが確認されたことから、その後、類似場所を確認しました。蒸発濃縮装置1A～1Cにおいても、同様の損傷が確認されたことから補修を実施し、12月6日、コンクリート製床の補修が終了しました。また、再発防止対策としている、漏えい拡大防止用の堰内に漏えい検知器を15日までに設置すると共に、それまでの期間、1日6回の巡視を行う運用面の対策準備が整ったことから、水バランスを考慮の上、12月12日午後2時33分に蒸発濃縮装置1B、午後2時46分に同装置1C、午後3時50分に同装置1Aを再起動しました。

以上